

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | ケインズ伝 (7)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

ケインズ伝 (7)

ケインズによる経済学の基礎には、全体と部分、体系とその構成要素、マクロ経済学とミクロ経済学があります。

彼の理論においては、全体は、すべての個人の計画とは独立して、全体独自で作用するとしています。

ケインズの理論は「儉約のパラドックス」を提起しました。

「一人だけがより多くの貯蓄を始めれば、その人の貯蓄は増加する。

しかし、すべての個人がより多くの貯蓄を始めれば社会の総貯蓄が増加するというのは、もはや正しくない。

貯蓄の広がりには消費の減少、総需要の低下、生産の減少、失業の増加、そして貯蓄の源である所得の減少を意味する」

実際には存在し得ない理想化された前提や過程ではなく、現実的な前提と過程にもとづく分析がケインズの思想の基本的な特徴です。

こうしたケインズの「現実主義」的思想は、理論化と研究対象である現実との間の本物の結びつきを常に目指しています。

ケインズは経済学を道徳科学であると考えていました。

ケインズの株式投資に関する投資家としての興味深い考え方があります。

暴落で何度も大損失を被りますが、相場が下落するなかで株式を持ち続けるのは自己利益を超えて、義務だところ語っています。

「相場が底をつけたときに株式をもちつづけていたことを、恥とは思っていません。

真剣な投資家は…下落相場で売り逃げるべきではないと考えています。

真剣な投資家には、保有する株式の価値の下落を、自分を責めることなく冷静に受け入れるべき時期があると考えています。

それ以外の方針をとるのは反社会的であり、信任を破壊し、経済システムの仕組みと矛盾します。

投資家は…主に長期的な結果を目標にするべきであり、長期的な結果だけで判断されるべきです」

ケインズが論じたとおり、考え方はきわめて重要です。

世界を支配しているのは、考え方以外にありません。

金融危機の根本原因は、経済学の理論的失敗にあります。

経済学の考え方が間違っていたから金融自由化が正当化され、金融自由化を進めたから信用が爆発的に拡大し、それが崩壊して信用逼迫が起こったのです。

(8) に続く

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>> 一覧へ戻る

[教育カリキュラム](#)

[日本国憲法](#)

[傾聴](#)

[語り部スキル](#)

[▶ キーワード検索はこちら](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.